しょうがっこうをおくる会様

プラン特別プロジェクト
ベトナムにおける小学校建設プロジェクト
【提案書】

公益財団法人プラン・ジャパン

2016年2月26日

子どもと築く、未来のしくみ

本資料の内容

◆プロジェクトの背景

◆プロジェクトの実施内容

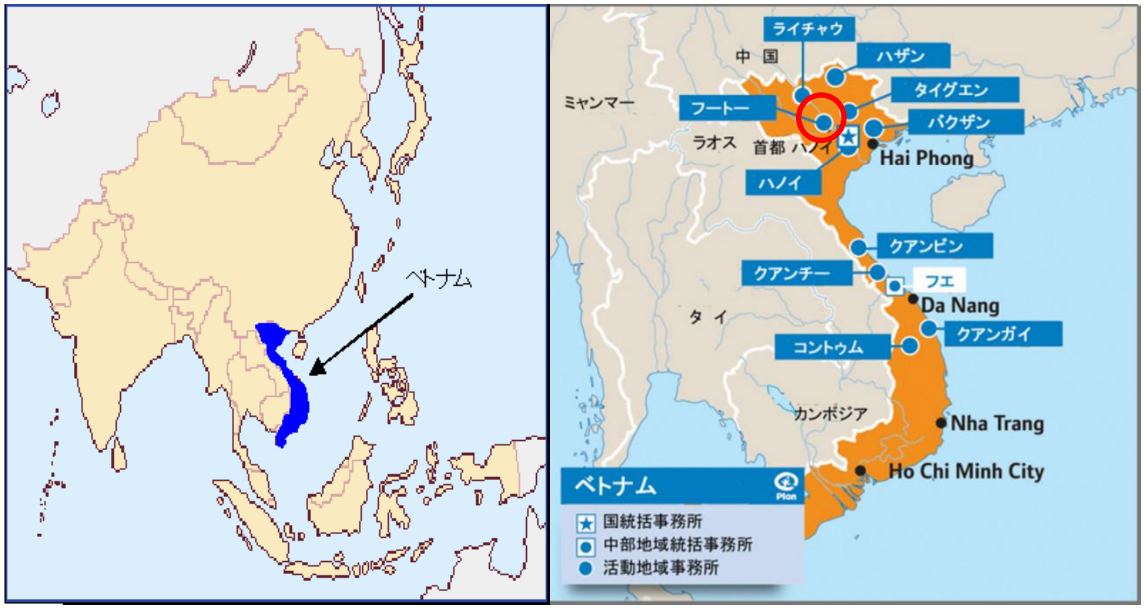
◆プロジェクトの予算

◆プロジェクト成果の報告内容

Plan
プラン・ジャパン

■プロジェクトの活動地

本プロジェクトは、ベトナム、フートー省タンソン県、タクキエット　コミューン、ミンンガ村での実施を予定しています。



【プランのベトナムでの活動】

・プランは、ベトナム戦争の影響で1975年にベトナムでの活動を停止した後、1993年から北部のナムハ県において活動を再開。

・現在は北部と中部の合計10の活動地域で、住民参加型開発活動に取り組む。

Plan
プラン・ジャパン

■ベトナムの教育における課題と活動予定地の状況

【ベトナムの教育における課題】

- 近年の経済成長により、教育環境が整備され国全体の子どもの就学率は上昇している一方で、都市部と農村部における格差は広まりつつあります。中でも少数民族が多く住む山岳地域は国の成長から取り残され、学校施設は劣悪な状態で、教育の質も低いままです。そのため、少数民族が多くを占める農村部の子どもたちは、十分な基礎学力を習得することができず、高等教育を受ける機会が限られています。

【プロジェクト対象地域の状況】

- ベトナム北西部の山岳地帯に位置するフートー省は、省内13県に人口約134万人（約37万世帯）を擁し、1日1.25米ドル未満で暮らす人々の割合を示す貧困率は14%を示しています。
- プロジェクト対象チッキのタンソン県タクキエットコミューンは人口3,955人（990世帯）のうち、82%が少数民族で、貧困率は27%に及んでいます。
- 活動予定地のミンンガ村は、タクキエット　コミューンの中心から約8キロに位置しています。

Plan
プラン・ジャパン

■活動予定地域の課題

活動予定地であるミンンガ村の小学校（分校）では、現在1年生から5年生の児童64人が学んでいますが、以下の課題に直面しています。

① 教室の不足

現在同校では、5教室において授業を行っていますが、うち1室は簡易素材で建てられた屋根のみの造りの仮設教室であるため、強風が吹くと簡単に崩壊する危険をはらんでいます。そのため、現在この教室は使用せず、村の集会所を間借りして授業を行っている状態です。

② 備品・教材不足

5教室にある机やいすの一部は破損しているため、64人の児童全員が使用することができません。

③ 図書室の不備

同校には図書室がないため、子どもたちには、物語などの書物に触れて読書の習慣を習得する機会がありません。また、貧困のため教科書を持たない子どもたちに貸し出す教科書もありません。

④ 子どもにやさしい運動場の不備

現在、同校に備わっている校庭は、地面がむき出しのうえフェンスが無いため、雨が降るとぬかるむと共に、子どもたちの安全を確保するのが難しい状況です。

学年	児童数
1	12
2	11
3	19
4	13
5	9
合計	64

ミンンガ小学校（分校）学年別児童数

■活動予定地域の課題

（上左） 簡易素材で建てられた仮設教室（写真左手前）

（上右） 仮設教室内の様子。4方を囲む壁がないため、安全の確保が難しい状態です。そのため、現在は使用されていません。

（左） 校舎に隣接した地面がむき出しの校庭

本資料の内容

◆プロジェクトの背景

◆プロジェクトの実施内容

◆プロジェクトの予算

◆プロジェクト成果の報告内容

■プロジェクトの概要

項目	内容
プロジェクト目標	ミンンガ村の分校において、子どもにやさしい学習環境を整備することにより、同校に通う子どもたちの基礎学力の向上を図る。
実施期間	約1年 ※天候などの現地事情によって活動期間が前後する場合があります。
対象者	ミンンガ村の分校の児童64人
活動内容	• 教室の建設（1教室） • 教室備品（机、いす、教師用机等）の支給 • 図書室の建設と本、教材の支給 • 運動場の整備

※活動地域、内容は現時点でのものです。プロジェクト実施地域の事情などで、活動内容が変更になる場合があります。
その場合は、速やかにご報告いたします。予めご了承ください。

Plan
プラン・ジャパン

■住民参加型によるプロジェクトの実施

プランは地方自治体と連携をしながら住民参加型でプロジェクトを実施することで、プロジェクト完了後も成果が持続するよう進めていきます。

【住民参加型プロジェクトの実施イメージ図】

住民は、計画立案から実施、進捗管理、評価などすべての段階に関わり、プロジェクトの中心となって進めます。

住民参加型で実施することの効果

- ✓ プロジェクトが自分たちのものであるという意識の醸成
- ✓ プロジェクトによる成果が持続

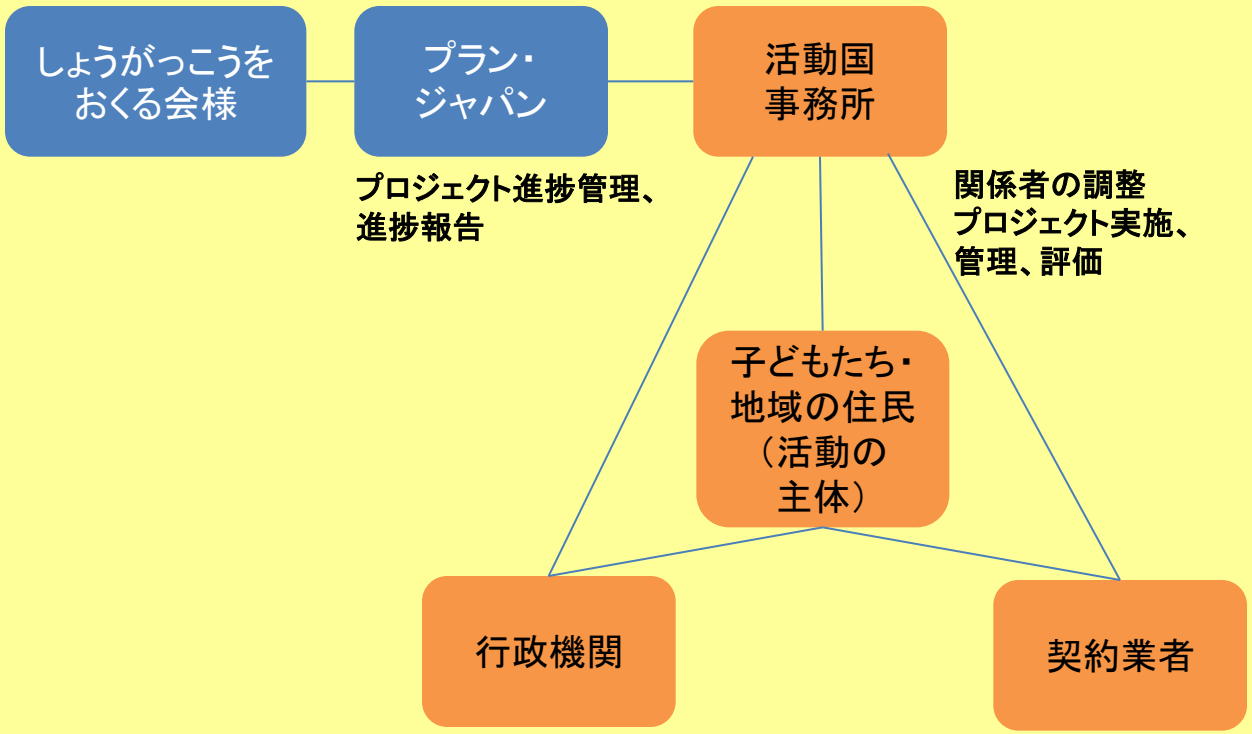
行政機関との連携

行政機関と連携することで、プロジェクトを円滑に進め、持続性を担保します

■プロジェクトの実施体制

プロジェクトの主な実施体制は下記を予定しています。

【プロジェクトの実施体制図】



■直接的に得られる成果（アウトプット）

本プロジェクトの実施により直接的には下記の成果（アウトプット）が得られることを予定しています。

【直接的に得られる成果（アウトプット）】

- 教室の建設（1教室）
- 教室備品（机、いす、教師用机等）の支給
- 図書室の建設
- 児童書、教科書、図書室用備品の支給
- 子どもにやさしい運動場の整備

図書室で本を読む子どもたち
（イメージ）

■長期的に期待される成果

本プロジェクトの実現は、SDGs（ Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）*の目標4「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に貢献します。

①子どもたちの学習環境の向上

- 安全で子どもにやさしい学習環境を提供することにより、子どもたちの学習環境が改善、ひいては教育の質の改善に寄与します。
- 長期的には、より多くの子どもたちが充分な知識を得て成長することにより、地域全体が貧困から少しずつ脱却していくことに貢献します。

②持続的な発展

- 教育省や地域の教育局、コミューン人民委員会、各方面の関係者を積極的に巻き込んでプロジェクトを実施することで、プロジェクト実施後の校舎の維持管理が持続されます。

※SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は、2015年9月に国連の全加盟国193か国によって承認。2030年までに「誰も置き去りにせず世界から貧困を根絶する」こと、そして「地球を持続可能なものにする」ことを目指している。17の目標と169のターゲットから構成され、教育、保健・衛生、ジェンダー平等、雇用改善などとともに、気候変動、都市問題、生態系の保全、平和構築など、社会・経済・環境という3つの側面を含む包括的な内容となっている。プランはこのSDGsに呼応しながら活動を継続。

【参考】SDGsの目標4

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

4.1	2030 年までにすべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。
4.2	2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び 就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。
4.3	2030 年までに、すべての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教 育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。
4.4	2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及 び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。
4.5	2030 年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立 場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスで きるようにする。
4.6	2030 年までに、すべての若者及び大多数（男女ともに）の成人が、読み書き能力及び 基本的計算能力を身に付けられるようにする。
4.7	2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様 性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可 能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
4.a	子ども、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安 全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。
4.b	2020 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国、ならびにア フリカ諸国を対象とした、職業訓練、情報通信技術（ICT）、技術・工学・科学プログ ラムなど、先進国及びその他の開発途上国における高等教育の奨学金の件数を全世界 18 で大幅に増加させる。
4.c	2030 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員 研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。

本資料の内容

◆プロジェクトの背景

◆プロジェクトの実施内容

◆プロジェクトの予算

◆プロジェクト成果の報告内容

Plan
プラン・ジャパン

■プロジェクトの予算

プロジェクトの予算は450万4,360円で、内訳は下記の通りです。

活動内容	予算（円）		
	しょうがっこうをおくる会様からのご寄付	コミュニティ負担分	合計
教室の建設（1教室）	1,683,432	504,360	
教室備品（机、いす、教師用机等）の支給	280,200	0	
図書室の建設	1,008,720	0	
児童書、教科書、図書室用備品の支給	56,040	0	
子どもにやさしい運動場の整備	336,240	0	
現地におけるプロジェクト管理費	235,368	0	
プログラム管理費	400,000	0	
合計（円）	**4,000,000**	504,360	4,504,360

※活動は現地通貨を用いて実施します。円に対する為替差益や差損が生じる場合があることを予めご了承ください。

本資料の内容

◆プロジェクトの背景

◆プロジェクトの実施内容

◆プロジェクトの予算

◆プロジェクト成果の報告内容

■プロジェクト成果の報告内容

プロジェクト完了後、報告書を作成し、写真を添えてご報告いたします。

主な報告の内容

- プロジェクトの背景
- プロジェクトの実施内容・成果
- プロジェクトの支出
- 写真

■ご支援による特典

プレートの設置やプロジェクト実施地のご訪問も可能です。ご希望の際には
お知らせください。

◆ プレートの設置
完成した学校には、ご指定のお名前などを入れたプレートをお付けすることが
可能です。

◆ プロジェクト実施地のご訪問
プロジェクト完了時に開催する落成式開催時等にプロジェクト実施地をご訪問
いただくことができます。

Plan
プラン・ジャパン

【参考】ベトナムの子どもに関する主な指標

ベトナムの子どもに関する主な指標は下記の通りです。

子どもに関する主な指標	ベトナム	日本
人口	9,168万人	1億2,714万人
5歳未満時死亡率（1,000人当たり）	24人	3人
改善された水源を利用する人の比率（%）	75	100
1人当たりのGNI*（国民総所得）（米ドル）	1,730	46,140
1日1.25米ドル未満で暮らす人の比率（%）	17	–
小学校の就学率（%）	98	–
小学校に入学した児童が最終学年まで残る率（%）	97	100
学校に通っていない子どもの数	12万2,000人	6,000人

出典：「ユニセフ世界子供白書2015」より

■問い合わせ先

■　プロジェクトに関するお問い合わせ
プログラム部　　曽我
TEL:　03-5481-6265／FAX:03-5481-6200
Email：soga@plan-japan.org

■　入金・広報・その他のお問合せ
ファンドレイジング部　　平田
TEL:　03-5481-7100／FAX:03-5481-6200
Email：hirata@plan-japan.org

Plan
プラン・ジャパン